

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第13号については最新の台風予報を参照。
- 8月1日は、高気圧がオホーツク海を南へ移動する。沖縄・奄美付近に高気圧が停滞する。
- 2日から3日にかけて、高気圧が千島近海を東へ移動する。
- 4日から5日にかけて、日本のはるか東の高気圧が日本海に張り出す。

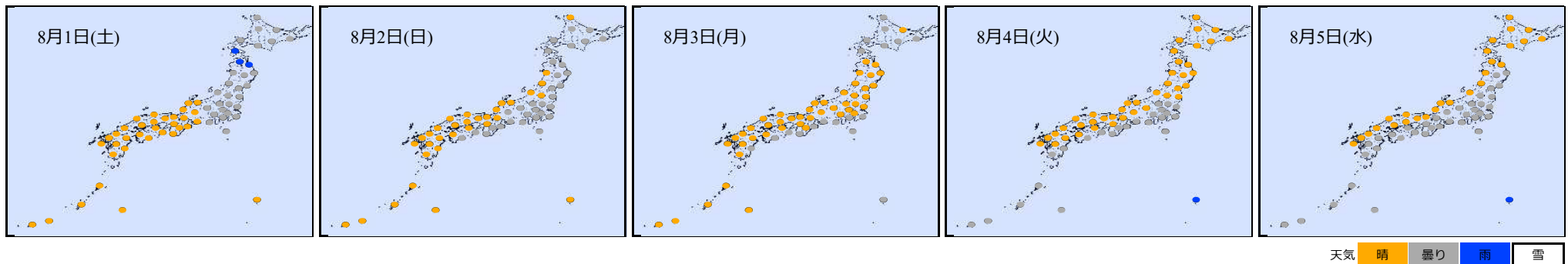
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 8月3日頃は、小笠原諸島では、台風第13号の影響で波が高くなり、台風の進路等によっては大しけとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

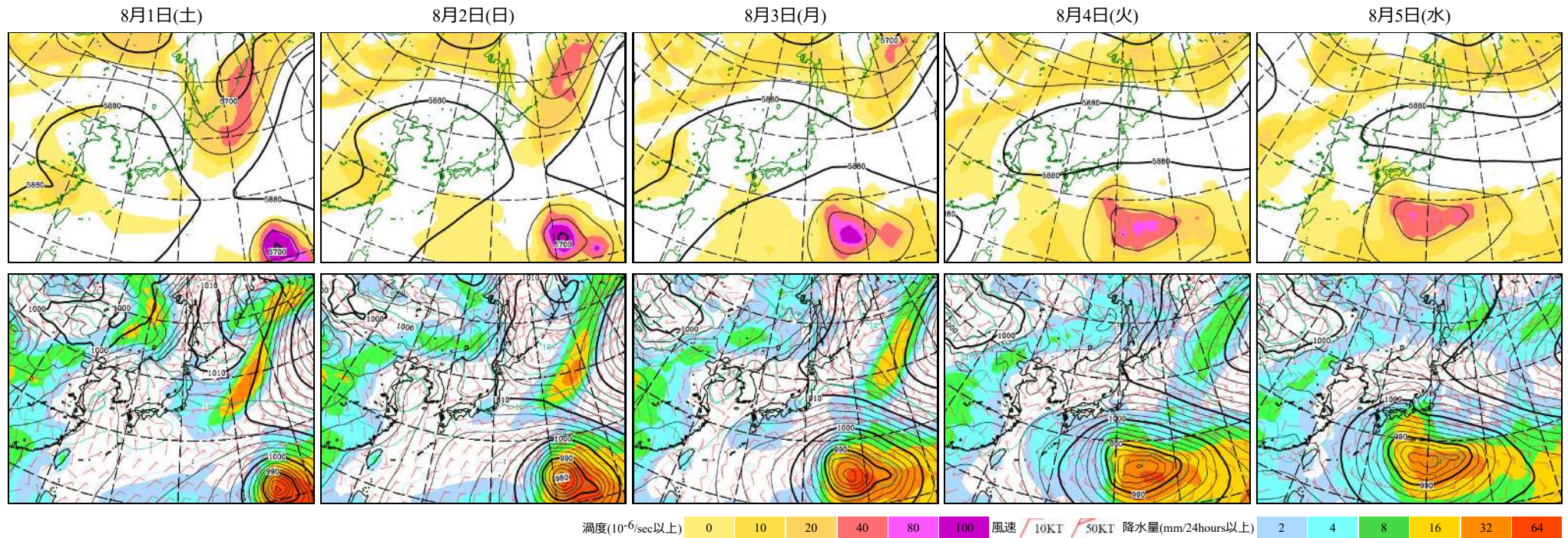
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

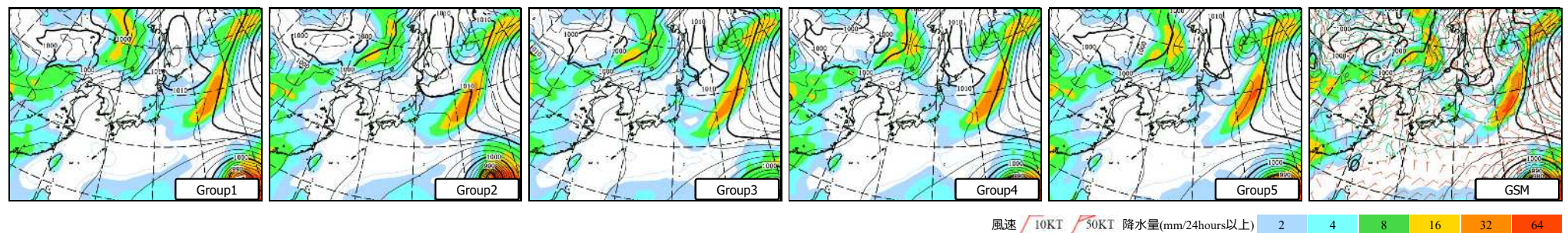


- 北日本は、晴れや曇りの日が多いが、8月1日は雨の降る所がある。
- 東日本は、曇りまたは晴れの日が多い。
- 西日本と沖縄・奄美は、晴れまたは曇りの日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆8月1日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、8月1日はオホーツク海の高気圧が強まった。このため、北日本では湿った空気が流れ込みやすくなり、降水確率ガイダンスの値が大きくなった所がある。
- モデル間の差は、1日から2日にかけて日本の東の上空のトラフの深さに違いが見られ、日本の東の前線の有無や位置の違いが見られる。
- スプレッドは期間の終わり頃に大きく、特定高度線のばらつきも見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。